平成27年予算審査特別委員会第2分科会（ 3月 5日） 向江すみえ委員　 開催日：平成27年 3月 5日
会議名：平成27年予算審査特別委員会第2分科会（ 3月 5日）

○（向江すみえ委員）　それでは、197ページの（11）の母子健康診査経費の⑤、上から３段目の５歳児健診経費についてお尋ねをさせていただきます。平成24年度から３年間かけてモデル事業として実施されましたが、いよいよ本年度から本格実施に移行して予算も計上されました。はじめに、昨年は５歳児健診の検討会等も設置されて、専門的なご意見やご提案もあったと思いますので、これまでモデル事業としてどのようにされてこられたのか、経過等を教えていただきたいと思います。
○（黒柳じょうじ会長）　子ども家庭支援課長。
○（子ども家庭支援課長）　５歳児健診事業のモデル事業についてのお尋ねということでございます。５歳児健診のモデル事業については、委員さんおっしゃるとおり、平成27年度から今年度までの３年間、実施してまいりました。この３年間では、葛飾区内の保育園・幼稚園に通う児童や、青戸地域にお住まいの５歳児の保護者の方を対象に、それぞれ203名の参加のもとでアンケート調査、集団行動観察、医師の診察などを実施してまいりました。また、今年度は、モデル事業の検証や来年度の事業実施に向けました検討会、仮称でございますが、葛飾区５歳児健康診査に関する検討会を設置いたしまして、５回の検討を重ねてまいりました。委員については、医師会の先生、発達専門医、療育機関の職員など、14名の委員で進めてまいりました。検討の内容といたしましては、モデル事業の検証だとか本格実施に向けた制度設計などについて、それぞれの立場で意見をいただきながら、５歳児健診の実施内容などを検討してまいったところでございます。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　ありがとうございました。具体的にはどのような成果があったのか、教えていただきたいと思います。また、本格実施に踏み込まれたわけですから、その理由もお聞かせください。
○（黒柳じょうじ会長）　子ども家庭支援課長。
○（子ども家庭支援課長）　このモデル事業につきましては、５歳児健診の本格実施を見きわめるために、課題や実施方法などを検討するために行いました。モデル事業は、これまでの健診にない５歳児の発達を中心に見てまいりました。そこでわかったことは、この事業の目的を保護者の方に十分に理解していただいた上で進める必要があること、また、アンケート結果や集団行動観察などの健診方法が保護者に見える形で進めていくこと、またさらに、医師会や保育園・幼稚園などの関係機関との連携・協力が不可欠であることなどの事業実施のポイントを把握することができたということが、これがまず成果であったと考えております。
　また、実施の理由につきましては、モデル事業の結果や検討会による検討結果を踏まえまして、発達に課題のある児童については早期に発見をし、早期に適切な対応をすることが重要であると考えました。そのため、運動や言葉、あと集団生活が徐々にできてくるこの５歳の時期に、発達等の課題を早期に支援につなげるための健康診査を実施することといたしたところでございます。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　５歳児のその健診の項目をお聞かせください。
○（黒柳じょうじ会長）　子ども家庭支援課長。
○（子ども家庭支援課長）　５歳児健診では、先ほども申し上げましたとおり、児童の発達に関する健康診査を中心に実施してまいろうというふうに思っております。発育面では、身長、体重、あと視力の項目について審査項目と考えてございます。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　今ご説明があったように、５歳児健診の項目の中に視力検査もあるということなので、幼児期における視力検査についてお伺いをさせていただきます。眼科の専門家医によると、視力は５歳で1.0、６歳になるともう大人とほぼ同じような視力がついてくるそうです。そして、網膜にはっきり像を結べない屈折異常とか、また、左右の視線が一致しない斜視などは、これを６歳まで放置すると、視覚の発達が阻害されて、手当てをしないと眼鏡で矯正しても正しく見ることができなくなる弱視になるそうなのですね。子供は見えにくいと自覚して訴えることが少ないために、就学前の視力検査で初めてわかる場合も少なくないそうです。早いうちに適切な処置をすることで正常な視力を得ることができるというふうに言われておりますので、そこで本区で乳幼児に対して、まず３歳児健診のときに初めて視力検査が行われますが、そのときの方法をお聞かせくださ

い。また、あわせて、昨年度の３歳児健診の対象者数と、そのうち視力検査を行った人数と、その中で再検査が必要だと判断された人の数、そして再検査はどのように行われたのか、お聞かせください。
○（黒柳じょうじ会長）　金町保健センター所長。
○（金町保健センター所長）　葛飾区の３歳児健診の中で視力検査についてのご質問ですので、お答えいたします。
　両眼の高度弱視は３歳以前に発見されることが多いのですけれども、片眼となりますと、弱視でも日常生活では余り支障がないためになかなか発見されにくく、年齢を重ねますと治療効果が著しく低下するために、３歳児の健診で視力検査を実施しております。
　方法は、委員が述べられたとおりなのですけれども、３歳児健診のご案内の封筒の中に、ご家庭で練習で実施していただく４種類の絵の書いたものと、それから、その絵をお子さんから所定の距離を離して、それから所定の高さでというふうに実施方法を書いたものを一緒に、あわせて封入してお送りしております。実際の３歳児健診の場では、ご家庭で実施した眼科健診のその絵の幾つを答えられたかというものを確認して、それでさらに検査が必要か、紹介等で専門の眼科のほうへ行って続けて検査をしていただくか等の判断にしております。また、３歳児健診では、小児科医が診療を行っておりますが、その際にも眼科的な問題がないかどうかのチェックもあわせて行っております。
　昨年度の３歳児健診ですが、対象者数が3,621名で、このうち90.7%に当たる3,284名が受診しております。このうち、眼科的な所見で問題があるのではないかと考えられた者が101名おりました。所見の内容といたしましては、斜視、眼瞼下垂、視力の異常などを挙げております。所見があった者につきましては、精密検査及び受診の勧奨を行っておりますが、これが38名、それから他機関で既に管理をされている者が33名、経過観察となった者が30名でした。
　以上です。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　ありがとうございました。３歳児ではまだ発達にも個人差があるので、正確な意思表示ができるかということはまた不安が残りますし、家庭での検査では保護者の取り組みにも温度差がありますので、検査に対しても心配な点があるのではないでしょうか。また、生活の中で何不自由なく見えていても視力の異常は見つけにくく、むしろテレビを目を細めて見るとか、瞬きを異常にするなど、保護者ならではの変化に気づくことができます。
　私も、我が家には２人の子供がいますが、娘のほうは目が悪くて、小学校に入学したときに黒板の字が見えないというふうに言い出しまして、親の私が悪いので遺伝だから仕方ないと思ってしまって、何の治療もすることなく小学１年生のときから眼鏡をかけさせました。同じく、昨年、小学校の児童をお持ちの保護者の方から、葛飾区では３歳児健診で目と耳、聞こえるか見えているかのチェックが、検査があって、保健所より検査用のキットが送付されて、事前に親が簡単なテストをして、その結果を受診するときに提出して、医師の健診はありませんでした。現在、娘は眼鏡をかけている生活をしているので、あのときにもう少し検査がわかっていたら眼鏡をかけずに済んだのかもというふうに思うというふうにお話を伺いまして、これまで３歳児健診で弱視を見逃せば、その後はもう小学校の入学の就学前健診まで見過ごされてしまいますので、一生の視力を決定づけるこの幼児期こそ、きめ細かな健診を行う必要があるというふうに思います。ですから、今回実施される５歳児健診は、その中に視力検査を入れていただいたことは本当に評価させていただきますので、具体的にはどのようにされるのかをお聞かせいただきたいと思います。

○（黒柳じょうじ会長）　子ども家庭支援課長。
○（子ども家庭支援課長）　５歳児健診の視力についてのご質問だと思います。５歳児健診におきましては、視力の健診は具体的に実施していきます。具体的な中身については、対象者全員、約3,700人というふうに考えてございますが、それにアンケート調査という形でアンケートを送りまして、その１項目の中にランドルト環というアルファベットのＣの形をしたものをつけまして、それを３メートル離れたところから一方の目ずつで見てもらいながら、その結果を書いていただくというようなアンケートをとっていきたいと考えてございます。その結果によって、眼科医の受診が必要な方については勧奨を行おうというふうに思っております。５歳児健診において、就学前のこの時期に視力の確認を行いまして、早期に対応を図っていきたいという考えで実施してまいります。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　ありがとうございました。５歳児健診は発達障害の早期発見につ

ながるものと思います。支援が必要な幼児を早目に見きわめて適した支援につなげていただくためにも、５歳児健診の本格実施は重要な事業だと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○（向江すみえ委員）　209ページの２番目の歯科相談事業経費の中に入ると思いますが、妊産婦の歯科健診についてお尋ねをいたします。本区の歯科健診は、妊娠・出産から始まり、75歳の長寿歯科健診まで充実していただいていることは評価させていただきます。しかし、妊産婦につきましては、妊婦のお口の健康教室のみで、産婦に関しては全くなく、お子さんが２歳になって行うすくすく歯育て歯科健診まで口腔内の健診の機会がないのが本区の現状ですが、はじめに、妊産婦の歯科健診の状況は他の自治体ではどのようになっているのか、お聞かせください。
○（黒柳じょうじ会長）　健康推進課長。
○（健康推進課長）　特別区における妊産婦の歯科健診の状況でございますが、妊婦におきましては21区で実施されております。やり方については、保健所等に集める集団の健診、または最寄りの歯科医で行う個別健診とさまざまでございます。なお、産婦の歯科健診につきましては、７区にて実施しているところでございます。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　妊婦は21区やっているとのことですので、ほとんどの区は妊婦健診の歯科健診は行われているということですが、本区の母子健康手帳の中にも、妊娠中と産後の歯の状態について、虫歯や歯周病などの病気は妊娠中に悪くなりやすいものですと、歯周病は早産等の原因になることがあるので注意しましょう、そして歯科医師に相談しましょうというふうに、妊婦における歯科健診の重要性はこの母子健康手帳の中にも記されております。赤ちゃんがおなかにいるときからの時期が大事ですので、医学的にも妊婦の歯周病菌の中に子宮の収縮にかかわる物質が存在することがわかっておりますので、妊婦が歯周病の場合は胎児の低体重や早産の確立が高まるということも言われております。そのようなことからも、妊婦の歯科健診の重要性があると思いますが、区のご見解をお聞かせください。
○（黒柳じょうじ会長）　健康推進課長。
○（健康推進課長）　お話にございましたとおり、妊娠期の歯の健康状況は、生まれてくる乳児の発育や虫歯に影響を与えるとともに、妊婦本人のホルモンバランスが変化することにより、免疫力の低下だとか食物の好みが変わるなど環境の変化があらわれるということがあります。妊娠中は、身体のみならず口腔環境についても体調管理が重要な時期であると認識しているところでございます。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　本区も、妊娠期における母親の無料歯科健診体制を早期に確立すべきと思いますので、区のご見解をお聞かせください。
○（黒柳じょうじ会長）　健康推進課長。
○（健康推進課長）　妊娠期における歯科健診については、その重要性から実施に向けて、今現在、検討しているところでございます。しかしながら、健診を実施するに当たりましては、集団で実施するのか、区内歯科医療機関の協力のもと個別で健診を行うのか、また、健診の時期や期間など、まだまだ多くの課題があるところでございます。いずれにいたしましても、歯科医師会をはじめ、関係部局と調整をしていきながら、妊婦の歯科健診については今後も検討を進めていきたいと思っているところでございます。
○（黒柳じょうじ会長）　向江委員。
○（向江すみえ委員）　課題もあると思いますが、どうかよろしくお願いいたします。母子ともに健やかな出産・育児を、ここ、誇りあるふるさとかつしかで送っていただくためにも、妊娠期、また、出産期の歯科健診を早期に実施していただけるようにお願いいたします。
　以上です。